

Trinity

2024 January Vol.44

New Year issue

Dialogue

半田市立半田病院院長

春日井市民病院院長

渡邊和彦 × 成瀬友彦

～地域医療支援病院の役割と課題～

(Facilitator) 春日井市民病院医療情報技術センター 山添 智

● DPCデータからみえる春日井市民病院の現状

医療情報技術センター 中崎 亨

● 病院からのお知らせ

※ QRコードで関連のホームページをご覧ください。



春日井市民病院
Kasugai Municipal Hospital



写真：上高地帝国ホテル ロビーラウンジ グリンデルワルド

地域医療支援病院としてのプライド



「これから先も春日井市民病院は安心できる医療機関であり続けられるでしょうか？」
その質問に「あり続けられます」と答えます。

私たち春日井市民病院のコミットメントは、患者や連携医療機関のニーズに沿った質の高い安全な医療サービスを効率的・効果的に提供するとともに、感染症、自然災害、大火災、サイバーテロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合においても医療の継続あるいは早期復旧を可能にするためのBCP（事業継続計画）を遂行できる体制を整えていくことです。

このコミットメントは、私たちに課せられた責任なのです。今もこれから先も永遠にこのコミットメントを守り続けていく、それが私たちの一番大切なミッションです。



春日井市民病院
Kasugai Municipal Hospital

新年のご挨拶

病院長 成瀬友彦



新年明けましておめでとようござい
ます。

約4年間続いたコロナ禍もようや
く終わりを迎え、当院も今年様々な
取り組みを始める予定です。

まず、5月の連休明けを目安に、
心臓病センターがスタートします。

循環器外来、心臓外科外来、心臓超
音波などの検査、心臓リハビリテー
ションなどを一ヶ所にまとめ、心疾
患治療が総合的に行える体制を築い
ていく予定です。

また、4月を目処にロボット手術
を始めます。ロボット手術自体はす
でに多くの病院で行われていますが、
当院は「ヒューゴ」という、日本で
の導入がまだ10台ほどである最新
式の手術ロボットを購入しました。
これまで以上に、侵襲が少なくかつ
安全な手術を提供できるものと考え
ています。

近年、带状疱疹ワクチンが話題に
なっていますが、带状疱疹後神経痛
のような耐え難い痛みに苦しんでお
られる患者さんを対象に、この1月
からペインクリニックを開設します。

辛い痛みからの解放の一助になるも
と期待しています。

その他、様々な新しい取り組みを
計画していますが、もっとも大切な
ことは、お一人お一人の患者さんを
真摯に丁寧に診察する姿勢だと思い
ます。職員一同初心を忘れず邁進し
ていく所存です。

また、当院の診療において医師会
の先生方との良好な関係が必須であ
ることは言うまでもありません。当
院も日々前進しているつもりではあ
りますが、まだ十分でない点も多数
あります。先生方の忌憚のないご意
見を是非お寄せくださるようお願い
いたします。

Handa City Hospital Director

KAZUHIKO WATANABE



Kasugai Municipal Hospital Director

TOMOHIKO NARUSE

～Roles and issues of
community medical support hospitals～

Facilitator SATOSHI YAMAZOE

——明けましておめでとうございます。年が明けての新
春対談として、半田市立半田病院（以下半田）の渡邊和
彦院長（以下渡邊）と春日井市民病院（以下春日井）の
成瀬友彦院長（以下成瀬）に病院経営や運営についてお
話を伺いたいと思います。お忙しい中、お時間をいただ
きありがとうございます。

今回は、お二人の手柄を深く掘り下げていきたいと思
っていますので、黙秘権は無しでお願いします。（笑）特
に伺いたいのは、①病院の経営について ②経営改善に
ついて ③地域に対する使命 ④特に重要視している診
療 ⑤地域の医療機関との良好な関係を築くために必要
なこと ⑥将来への展望 という内容で対談をお願いし
ます。資料を用意しましたので、それをもとに進めたい
と思います。よろしくお願いたします。

渡邊院長と成瀬院長は、以前からの知り合いだと伺
っています。どのようにして出会ったのでしょうか。
差し支えなければお二人のエピソードなどを聞かせさ
ださい。

成瀬：同じ大学でしたが、学生時代は面識がありません
でした。私が市立四日市病院で研修医をしている時に渡邊
先生は、2年後輩の研修医として入ってきました。当時
の市立四日市病院の研修医は内科系、外科系という仕切
りもなく、研修医室も一緒でした。スキーなどのレクリ
エーションも盛んで、すぐに仲良くなりましたね。

渡邊：食事や飲み会にもよく誘ってもらい、よく行って
いました。

成瀬：渡邊先生は、わりと私のことを慕ってくれていた気
がします（笑）。

渡邊：研修医の人数も私たちが4人、一つ上が6人、先生

の年が5人でしたから、仲が良かったと思います。
成瀬：しかし、渡邊先生がこんなに立派になるとは思っていなかったですね。



渡邊：それはお互い様です。(笑) 冗談は置いておいて、成瀬先生は将来、大きい病院の院長になると思っていましたよ。四日市の時にも若い医師の中心的存在でしたからね。若手の医師を牛耳っていましたよね。(笑)
成瀬：渡邊先生は、脳外科医で手術が趣味のような人だったので、病院経営の方向に進むとは思っていませんでしたね。

渡邊：確かにそう言われていましたね。

——昔から親父があったことがよく分かりました。同じ釜の飯を食べたという感覚のようですね。それでは、現在は院長として、公立病院の院長会議などで同席することもあると思いますが、今も一緒にプライベートでのお付き合いはあるのでしょうか。

渡邊：そうですね。ゴルフをご一緒させていただいたりしています。

成瀬：昨年も渡邊先生と稲沢市民病院の院長と西知多総合病院の院長でゴルフに行きました。
渡邊：いろいろな病院の方とのゴルフは、情報交換の場として重宝しています。

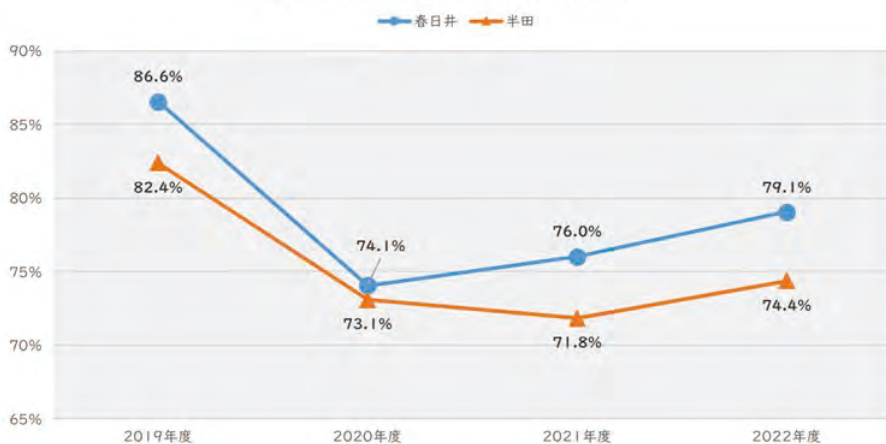


——それでは、本題の方に入りたいと思います。病院の経営は非常に難しくなってきました。在院日数の短縮、患者数が増えないと病床稼働率が低下して、収益を圧迫します。特にコロナ感染症の時期はとて大変であったと思います。また、人材確保と医師の働き方改革への対応は困難な課題です。これら、大きな課題とそれに対する対策をお聞かせください。

成瀬：コロナ感染症が蔓延したときは大変でした。公立病院として、患者さんや連携医療機関のニーズに沿った質の高い安全な医療サービスを効率的・効果的に提供する必要があります。また、感染症、自然災害、大火災、サイバーテロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合においてもBCP（事業継続計画）を遂行して、医療を継続し

ないといけません。この両者について並行して行うことになりました。大変な経験をしました。コロナ感染症への対応は、尾張北部医療圏の第二種感染症指定医療機関として、いち早くコロナ病床を設置して患者の受け入れを行い、発熱外来も設置しました。このような状況でも通常の医療を滞らせることなく行えたのは、職員全体ができることを考えてくれたおかげだと思います。どのような状況でも乗り切れるという自信にもなりました。
渡邊：本当に大変でした。当院も職員が一丸となって困難を乗り越えてくれました。

病床稼働率の推移（感染症病棟除く）



成瀬…病床稼働率の低下は、医業収益に大きな影響を与えます。在院日数短縮の圧力がある中で、患者数を増加させないといけません。コロナ感染症で病床稼働率が低下した一番大きい影響は、コロナ感染症でマスクや手洗い、うがいなどの清潔観念が定着して、肺炎や気道の感染症、腸炎などの感染症が大幅に減少したことです。

渡邊…当院でも同じデータが出ています。経営面だけでなく、医療安全を確保するために施設基準の取得や加算や指導料を積極的に取得していくことは必要で、そこは変えてはいけないところです。確かに全般的に入院患者は減少しましたが、緊急の心疾患や脳疾患はほぼ変わりませんでした。悪性腫瘍や心疾患、脳血管疾患など多くの疾患で入院患者は減少していません。

成瀬…当院も同じです。マスコミで受診控えが取りざたされていましたが、やはり重篤な疾患はそうなりません。経営の安定を考えた場合は、悪性腫瘍や人工関節、脊椎、脳神経など患者さんが病院を選択する疾患の充実に必要だと思います。これらを踏まえて、医業収支の黒字化には医師一人当たり月に一千万円の売り上げが必要だと思っています。達成できていないとしたら何かに問題があると考えています。しかし、医師には2対1で勝負試合ではなく、8対7で勝つゲーム、ルーズベルトゲームをやってもらいたいです。節約してばかりだと医師が委縮します。まあ、家庭で言うところの医師は「金使いの荒い稼ぐお父さん」、看護師やコメディカルは「それをたしなめるしつかりしたお母さん」をやってもらいたいと思っています。半田さんはできていますよね。

渡邊…当院は、人件費率が低いですが、対医業収益比率で約45%程度だと思います。多くの公立病院で50%を

超える中、職員はよく働いてくれています。

成瀬…半田さんは、単純に職員の給与費が低いのではなく、診療単価の高い診療科が、頑張つて収益を上げているから、相対的に人件費率が低くなっていると思います。人件費率が低いというよりも収益性が高いですね。

渡邊…確かにそうですが、コロナ感染症が広がり、本当に病院経営について悩みました。医療は診療報酬という定価が決まっています。それはインフレだからと言って病院独自で値上げができません。費用は上がります。これからの病院はある意味スタグフレーションの中にいると考えられます。職員のモチベーションを下げない収益の増加と費用の削減を行うしかないのです。これには本当に頭を悩まします。

成瀬…当院はコメディカルの職員が、非常に経営に関心を持っています。診療材料の費用削減にも協力してくれました。これで経営が良くなって、コロナ前までの10年連続経常収支の黒字を達成できたと思っています。

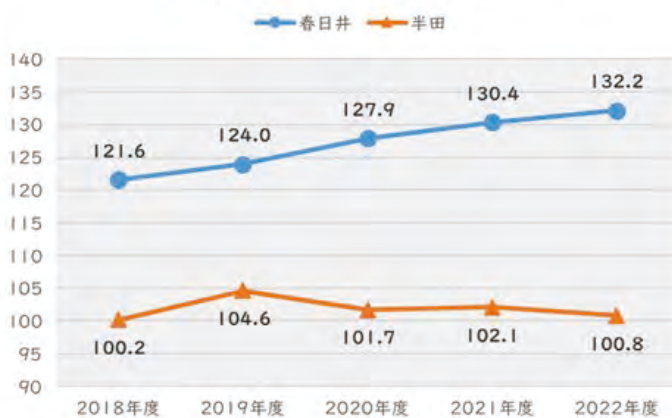
渡邊…一緒ですね。お金の話は、幹部会以外では話しません。収益の増加と費用の削減は非常に重要ですが、医師は良い医療をしてほしいと考えています。お金を稼ぐために、入院期間を延ばす病院もあるようですが、それは絶対にダメです。良い治療をすることが一番です。

成瀬…その通りです。基準として医師一人当たりの売り上げの話をしました。それは目安であって、売り上げが高い診療科でも人件費や高額材料費が計上されています。また、査定されることもあります。単純ではありません。難しいです。

— それでは、人材確保の話伺いたと思います。医師の常勤換算職員数の推移を見ていただくと春日井は増

加していますが、半田はそれほど増加していません。医師の確保はもちろんですが、薬剤師、看護師、医師事務なども不足していると言われています。どのように感じていますか。

医師_常勤換算職員数の推移



渡邊…医師の確保は苦労します。やはりその診療科のトップが大きく影響します。魅力のある診療科をつくって欲しいですね。

成瀬…その通りです。診療科のトップを見て後進の医師は育ちますから、責任は重大です。それだけではなく、研修医や看護師、コメディカルにも良い影響を与えますし、職員が働きやすい職場環境になります。

渡邊…医師については公募というよりも医局へお願いしていますが、医師以外の職種は公募になります。でも徐々に求人倍率が下がってきています。退職者分を補充する

にも苦労しますね。

成瀬…各職種の求人倍率は、看護師と薬剤師、臨床工学士、理学療法士の倍率が低下傾向にあります。徐々に厳しくなっています。

渡邊…どこの病院も同じですね。託児所など福利厚生に力を入れて働きやすい環境を整えてはいますが、厳しい状況が続いています。

—研修医の確保については、どうなっているでしょうか。

成瀬…研修医は毎年10名を採用しています。また、初期研修後に専攻医として多くの医師が残ってくれています。これも数年前から研修医の働き方改革を独自に行った好影響だと思えます。しかし、今後は厳しいかもしれません。毎年、安堵できるマッチングはありません。当院の研修管理室責任者が調べたら、救急車受入台数と研修医のマッチングは反比例しているそうです。つまり、救急車をたくさん受け入れている病院には研修医が集まらないそうです。

渡邊…当院も同じですね。地域のために救急を断らずに頑張ると研修医が集まらない。本当に困ります。

成瀬…マイナー思考の学生は、忙しい病院での研修を避けるのでしょうか。しかし、医師にとってはプライマリケアはとても重要です。救急患者を診察することで多くのことを学べるので重要なんですがね。

渡邊…急性期病院では、優秀な研修医の取り合いになっているのかもしれませんが。

成瀬…ある院長が、そのような研修医を集めるためには、総合内科のような医師を指導に当たらせる必要があると言っていました。

渡邊…確かにそうかもしれませんが、救急で患者の振り分けだけをやって、後の面倒を見ないと内科の中で軋轢を生む可能性がありますね。それは怖い。

成瀬…昔は「俺の背中を見て覚えろ」という医師が多かったのですが、今は、手取り足取り教えてくれる病院を選ぶようです。

渡邊…日赤や掖済会のようにブランドイメージを持っている病院は良いですが、研修医が集まる病院から学ぶ必要があるかもしれません。

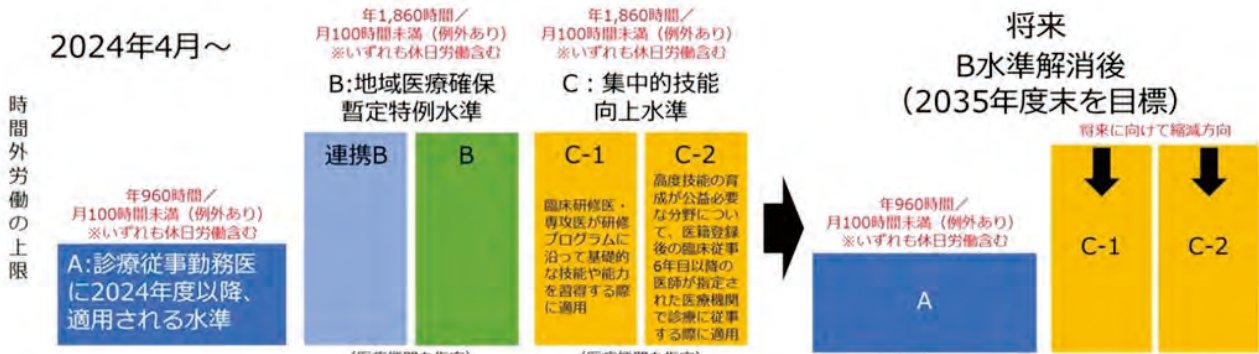
成瀬…ただ、研修医の定数は是正してもらわないといけないですね。定数の多い病院と少ない病院の差が大きすぎます。定数についての見直しを提案するつもりです。

渡邊…その通りです。

—研修医を集めるのも大変ですが、医師の働き方改革も大きな課題だと思います。令和6年4月から医師の間外労働の上限規制が始まります。医師の待遇改善に国が動き出した形ですが、これが始まると医師が増えない限り実質の延医師労働時間が減少します。どのように対応していくのでしょうか。

成瀬…今と同じ診療を続けるためには、医師の増員と医師業務のタスクシフトが必要になります。病院全体として取り組んでいます。大目標の「医師の働き方改革」を中心に検討して、運用を考えて欲しいと思います。

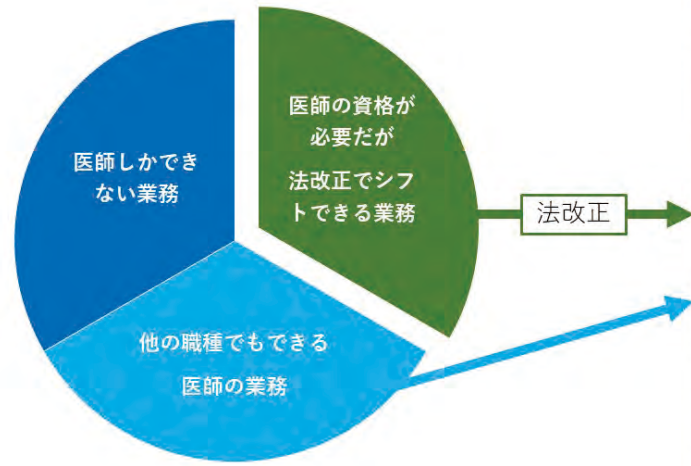
渡邊…当院では以前から放射線技師が、カテーテル検査や治療のセカンドとして清潔操作に入っています。管理栄養士も加算の取得などすごく協力してくれています。ただ、現状として医師の働き方改革に抵触してくる医師はごく一部です。用もないのに残っている職員もいます。診療科の長が適切に運用することが重要だと思います。



月の上限を超える面接指導と就業上の措置			
追加的健康確保措置	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (努力義務) ※実際に定める36協定の上限時間数が一般則を超えない場合を除く。	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)
	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)
	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)
	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)	連続勤務時間制限 28時間・勤務間インターバル9時間の確保、代償休息のセット (義務)

タスク・シフト/シェア

- 薬剤師
- 看護師
- 診療放射線技師
- 臨床検査技師
- 臨床工学技士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 視能訓練士
- 救命救急士
- 医師事務作業補助者



成瀬…医師業務のタスクシフトは、医療安全が重要なので簡単には移行できないですね。最終的には、現在の外来体制なども含めて考えていく必要があると思います。やはり急性期病院として、外来機能は地域の先生方において、今まで以上に救急診療と入院診療を重点に考えていかなければいけないでしょうね。

— 人手不足の中、急性期病院として、外来を縮小して入院診療を充実ということも考慮されているのですね。そうするには連携医療機関の協力が必要になってきます。医師の働き方改革について、医師からの要望はありますか。

成瀬…誰も言うてこないですね。

渡邊…私も聞いたことがありません。ただ、医師事務作業補助者の充実は必要です。きちんと教育されたモチベーションの高い医師事務作業補助者を増やすことは、医師の負担軽減だけでなく病院全体の潤滑油となります。しかし、会計年度職員での採用となっているので集まりません。良い方法を考えないといけません。

— 医師の確保の状況はどうなっていますか。

成瀬…消化器内科、整形外科、麻酔科の医師は、増員しました。麻酔科は更に増える予定です。また、泌尿器科も増員の予定があります。医療機器だけでなく医師の増員も含めて診療の充実は、着実に進んでいます。

渡邊…麻酔科の増員はすごいですね。どこの病院も麻酔科医の確保は悩みの種です。どうやっているのですか。

成瀬…私の人徳です。(笑)

渡邊…人徳はどうでもいいですが、方法をご教授いただきたいです。(笑)

— 経営改善への試みとして、2018年4月に春日井市民病院と半田市立半田病院の2病院で始めた「公立病院合同経営分析会」は、徐々に参加病院が増加して、今年度は豊川市民病院、一宮市立市民病院、岡崎市民病院を含めて、5病院の会になっています。どのような内容を話し合っているのか聞かせてください。



成瀬…他病院との診療データを比較することで、自院の特徴や課題を客観的に見ることが出来ます。それを各病院の手法を参考に具体的な手法で各部門へ改善提案できることはとても良かったと思います。病院経営に貢献したという職員が増えました。なかなか件数が増えなかつた救急医療管理加算についても院内での各部門の連携

が強固になり効果を上げましたね。そして、各部門単位での他病院との交流や情報交換できる状況になったことは大きなメリットでした。今後も経営だけでなく、適切な医療を提供するシステムの構築も含めて、この会を有意義なものにしていく必要があります。数年前は半田さんにとって春日井は経営指標のような立ち位置だったと思いますが、最近では立場が逆転しています。職員の皆さんの協力がすごいですね。

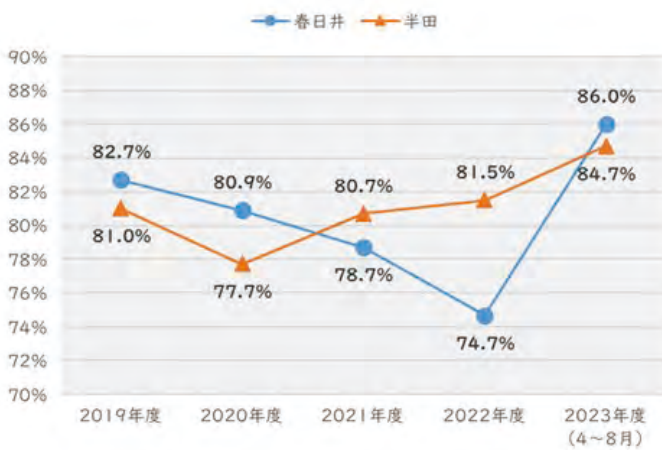
渡邊：確かに春日井さんを見習って頑張ってきました。この会を始めてから、職員の意識が変わり、全ての部署で協力的です。意識改革がすごいメリットだと思います。

成瀬：半田さんの在院日数はすごいですね。なかなかあそこまで短くできません。後方支援病院の協力もあると思いますが、どうやって退院支援をやっているのですか。

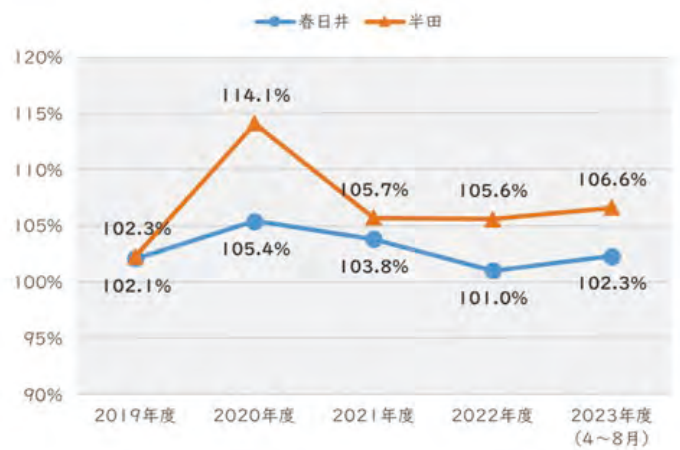
渡邊：地域医療機関の協力もあり、パスのような形で退院支援をやっています。入院後早期に退院支援を行っています。退院支援の内容を電子カルテ上で可視化できるシステムを独自で構築して、患者さんそれぞれが、どのような状況になっているかが分かるようになっていています。情報共有ができることで、退院が滞っている原因が分かれます。これで適切に対応できます。

——地域医療支援病院として、紹介率と逆紹介率の推移は重要です。それぞれの推移を掲載します。紹介率について2020年度はコロナ感染症で下がっていますが、半田病院はその後上がってきています。春日井は低下していましたが、今年度は戻ってきています。紹介や逆紹介を増やすためには、地域医療機関との連携がとても大切になります。どのような状況なのでしょうか。何か対策はしているのでしょうか。

紹介率の推移



逆紹介率の推移



退院患者の居住地分布_春日井



成瀬：特に対策ということはしていません。当院は急性期病院として、慢性化した患者さんは積極的に逆紹介するようにしています。そして、地域医療機関との信頼関係を構築するために、広報誌だけでなく診療所訪問や医師会との懇談会を行っています。

渡邊：当院も同じです。地域医療機関との関係を強化するのは重要だと考えています。

——それでは、どの地域からの患者さんが多いか見てみたいと思います。このデータは、それぞれの病院の退院患者の住居を表したものです。



成瀬：当院は、ほぼ春日井市内で、一部小牧市、名古屋市内北区と守山区の患者さんが入院していますね。地域の人口密度によってばらつきはありますが、市内はもちろんのこと、市外の先生方からも多く紹介していただいていることがよく分かります。信頼していただいている、ありがたいですね。また、地域医療を守るという観点から見れば、病院で競合しているというよりも近隣の病院とは協働していると考えています。また、名古屋市内などの病院へ受診している患者も多いと思いますが、高齢化が進展していくことで、少しでも通院しやすい近隣の施設が充実しているのが、地域住民としては理想的ですね。

そのため、30万人の人口を抱える市の病院として、全ての診療科の充実を目指していきたいです。

渡邊：当院は、ほぼ半田市内と武豊町、阿久比町ですが、知多半島全体からも入院していますね。当院も成瀬先生と同じ考えです。他病院と競合ではなく、西知多総合病院や刈谷豊田総合病院と協働して地域医療を守っていくべきであると考えます。

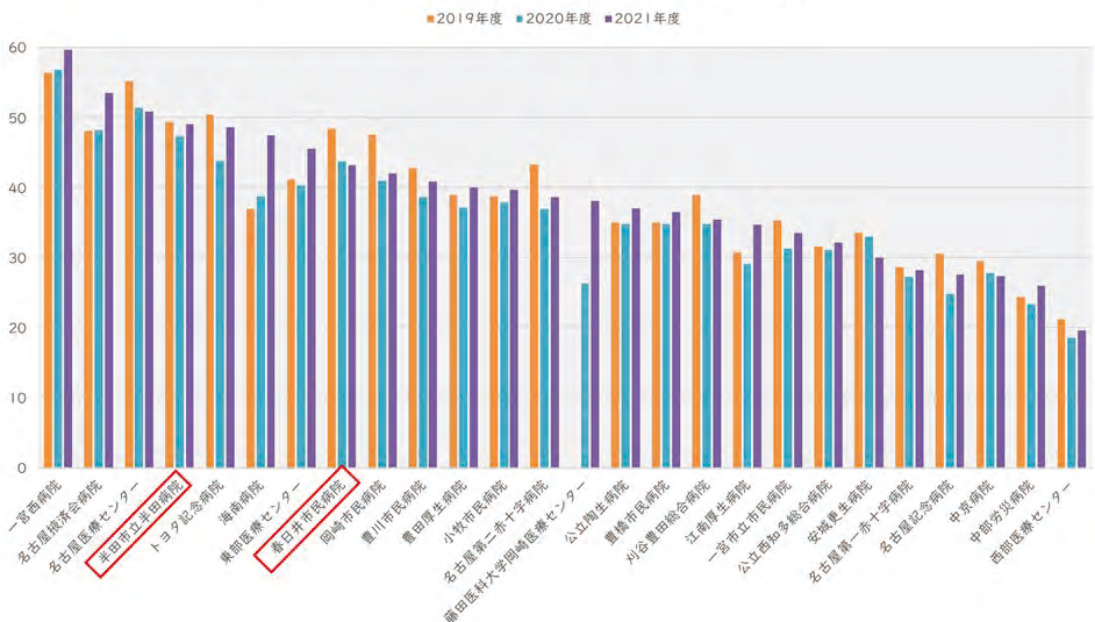
救急医療の受け入れ数です。病院規模を考慮し100床あたりに換算した2019年度から2022年度の救急搬送からの入院患者数の推移です。救急患者の受け入れは、地域住民や地域医療機関にとっても重要なことです。春日井も半田も近隣病院と比較して非常に多くの救急車を受け入れています。この体制を維持することは大変だと思えます。どのように受け入れているのか対策などをお聞かせください。

渡邊：病院規模を考慮したデータを見たことが無かったので、これを見るとすごく多くの患者さんを受け入れていることがわかります。やはり、地域の皆さんが安心して暮らすには、もしもの時にいつでも受診できるのは重要なことです。

成瀬：その通りです。でも「断らない救急」を継続することとはとても大変です。救急専門医を配置して、看護職員の十分な配置と教育など職員の負担も大きくなります。365日24時間、循環器内科医が常駐するなど緊急には対応できる体制を取り、ICU（集中治療室）も常に入院できる体制を取らなくてはなりません。また、MR検査などの高度医療機器についても、どの時間帯であってもすぐに撮影できる体制を整えています。地域の救急医療を守るために、職員が全面的に協力してくれます。本

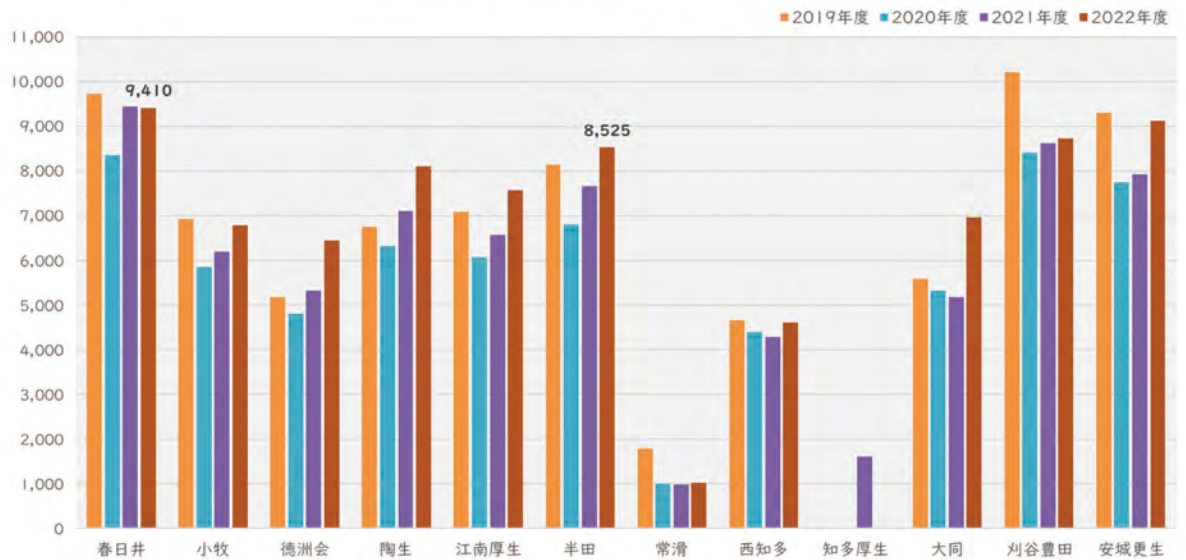
当にありがたいと思っています。

100床あたり退院患者数_救急搬送からの入院（1か月あたり）



次に全国自治体病院協議会の公開データ及びホームページから2019年度から2022年度の救急搬送数を近隣病院と比較したものをみてください。これは病院規模を考慮していないので救急搬送数の実数となります。

救急搬送数（近隣病院との比較）



全国自治体病院協議会「医療の質・医療安全指標の評価・公表等推進事業」公表データ及び各病院ホームページに公開されているデータを基に作成

成瀬…どこの急性期病院も救急車の受け入れは積極的にやっていると思います。救急車は自治体や地域に帰属します。人口の多い地域は多くなるし、少ない地域は救急搬送数も少なくなるでしょうね。

渡邊…成瀬先生と同じ意見です。この受け入れ台数で評価というよりも、可能な限り断らずに受け入れることを評価したほうが良いですね。これから高齢化が進展すると、命を救うために時間との戦いになります。断らない救急を維持していきたいと思います。

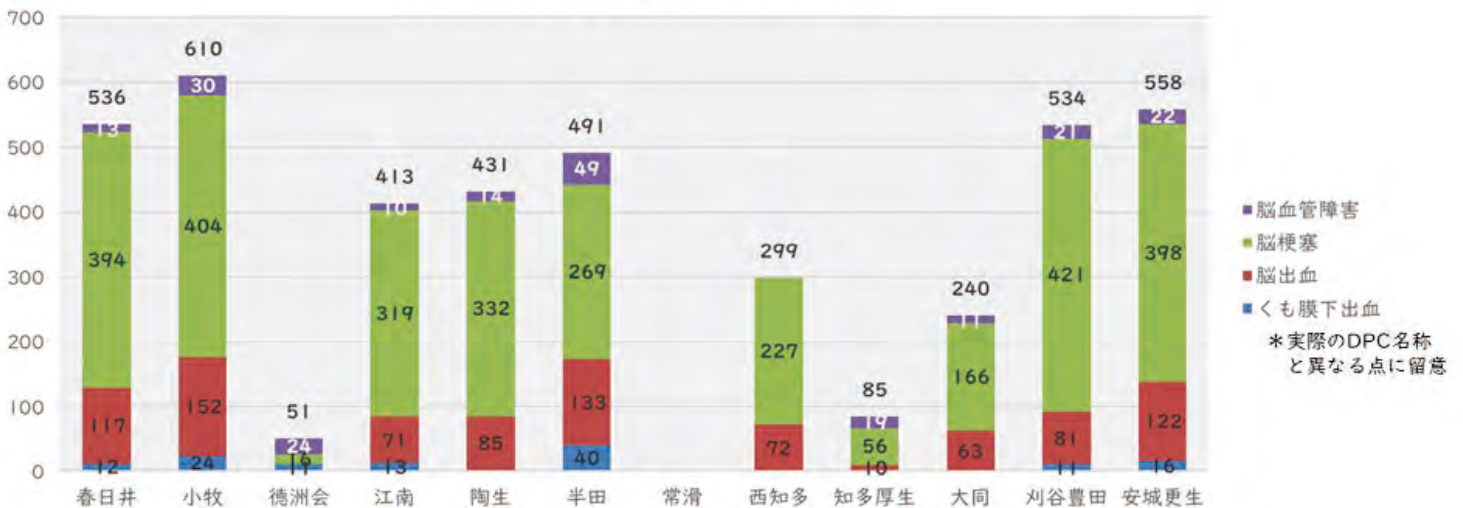
成瀬…その通りです。救急要請を断れば、次の病院を探さないといけません。その時間が命取りになる可能性は十分に考えられます。当院も救急医療である救命救急センター、ICU、手術、各種診断機器の充実は非常に大切であると考えています。

— それでは、急性期病院として重要な脳卒中、心血管疾患、悪性腫瘍の診療状況を2021年度のDPC公開データから見ていきたいと思えます（10件未満は非公開）。近隣病院で比較しますので、春日井は二次医療圏に公立陶生病院を加え、半田は刈谷豊田総合病院と安城更生病院、大同病院を加えて比較します。

成瀬…小牧はガンナイフなど脳神経に強い印象があるのかもしれないですね。小牧の常勤医師は脳神経外科医7名、脳神経内科医1名です。春日井は脳神経外科医4名、脳神経内科医5名です。脳神経に関して小牧をかかりつけにしている患者さんが多いのかもしれない。当院も脳卒中に対して、t-PAやクリッピング、血管内治療はもちろんのこと、6床のSCU（脳卒中ケアユニット）もありますので、脳卒中に関して十分な治療が行えています。また、麻酔科医師も増員していますので、手術やICUも充実した体制になっています。

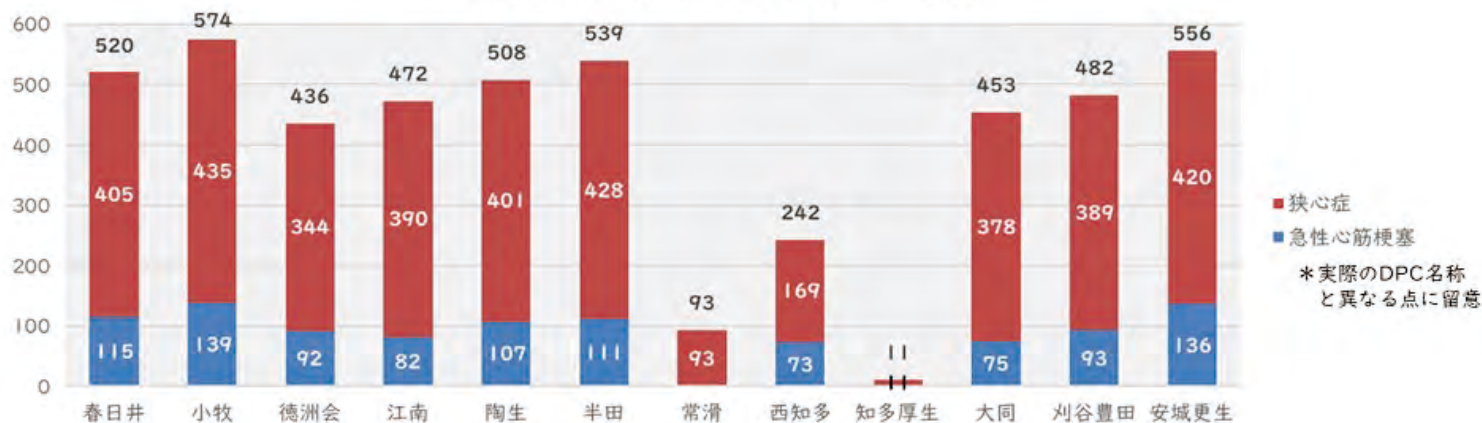
渡邊…当院は救急搬送台数とほぼ一致しています。私自身が脳神経外科医ですしSCUもあります。期待されていると思うので、更なる充実を目指します。

脳卒中に関連するDPCの退院患者数

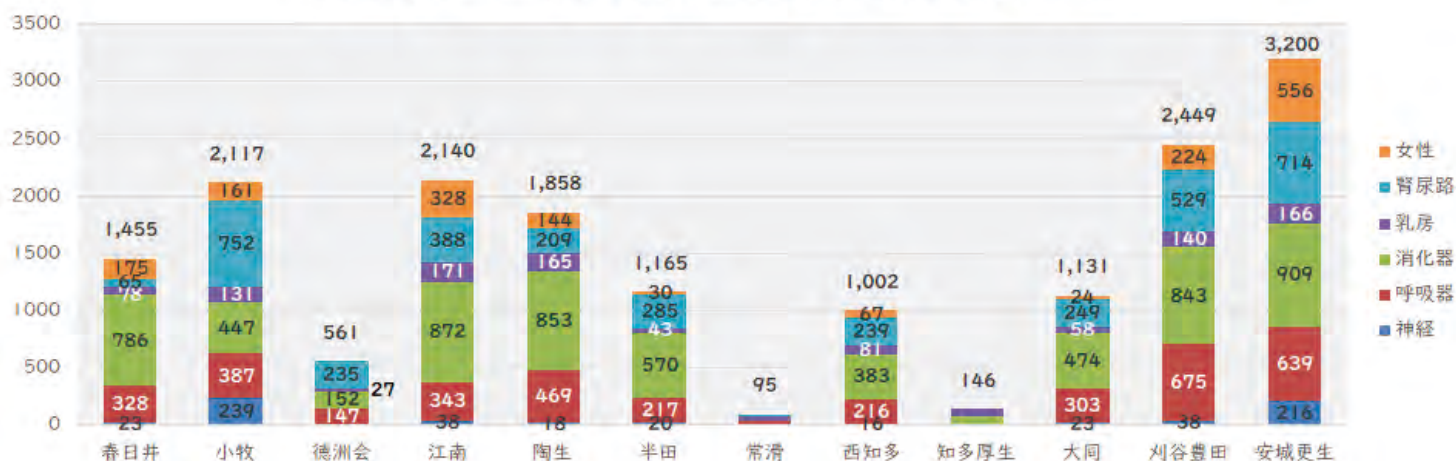


*実際のDPC名称と異なる点に留意

心血管疾患に関連するDPCの退院患者数



悪性腫瘍（一部に良性を含む）に関連する退院患者数_MDC別



成瀬：心血管疾患については、当院と名古屋徳洲会に分け合っている感じですね。救急のところでもお話ししましたが、当院の循環器内科は365日24時間完全に院内に医師がいる体制ができています。看護師、診療放射線技師、臨床工学技士も当直していますので、緊急のPCIにもすぐに対応できます。患者さんの来院からPCIを行いバルーン拡張などにより再灌流を得るまでの時間（door-to-balloon time）は一般的に90分が目安となっていますが、昨年度の平均が77分となっていますので、短い時間で再灌流できています。また、循環器疾患については循環器内科医が直通電話を持ち、地域の医療機関からの問い合わせにお応えできる体制もとっています。心臓血管外科手術についても医師会との懇談会でお話しさせていただきましたが、非常に精度の高い手術を行っています。安心してお任せいただきたいと思います。

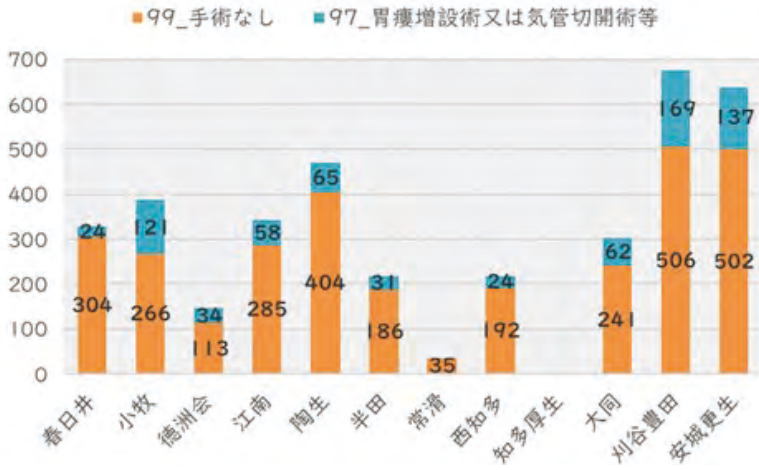
渡邊：当院は救急搬送台数とほぼ一致していますね。ただ、当院より北側は刈谷豊田総合がありますので、南の知多半島全域をカバーしなくてはならないと思っています。循環器診療に関して更なる充実をして行く考えです。

成瀬：悪性腫瘍については、消化器内科と外科がすごく頑張っています。私も内視鏡手術を見学しましたが、素晴らしい技術を持っている医師が多く誇りに思います。指導医も適切に対応しています。腎尿路については、泌尿器科の医師を増員することになりました。そして、手術支援ロボットも今年に導入します。また、乳がんに関するアピアランスケアを充実させるため、脱毛を抑制する「頭皮冷却装置」を導入しています。今後は、腎尿路、乳房、女性器のがん治療が充実しますので、地域の皆さんには更に安心していただける医療を提供できると思います。

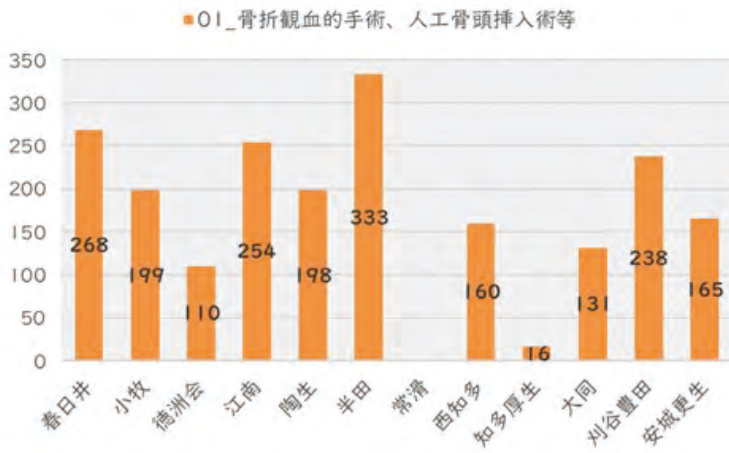
渡邊…がん診療に関しては、満遍なく治療しています。しかし、近隣の刈谷豊田、安城更生の治療件数が出出していますね。悪性腫瘍等の疾患は、患者さんが病院を選ぶ傾向が強く出ます。そのため、今後の病院経営を考えるのと、患者さんが病院を選ぶ疾患である、がん、脊椎、関節などを充実させていく必要があると考えています。

——高齢化社会の進展に伴い、誤嚥性肺炎、心不全、股関節・大腿近位の骨折という高齢者に多い疾患が増えてくると思います。2021年度のDPC公開データを見ていただきますが、どのように対応されるのかをお聞かせください。

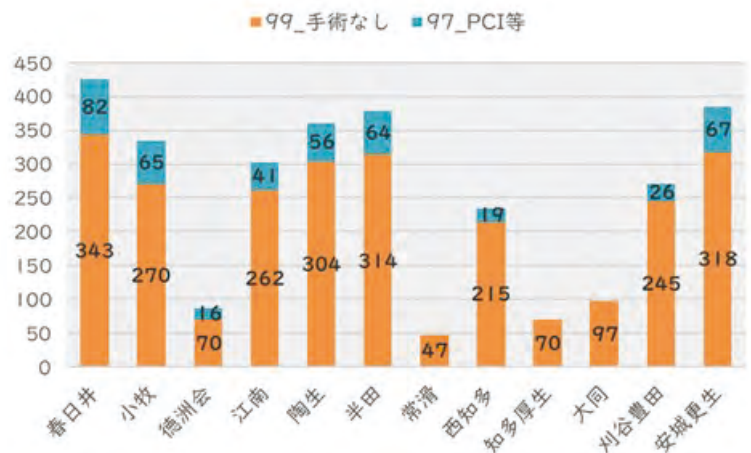
040081_誤嚥性肺炎



160800_股関節・大腿近位の骨折



050130_心不全



成瀬…一番重要なのは、多職種によるチーム医療と地域医療機関の皆さんとの連携だと思っています。高齢になると病気になることでADLが悪くなります。入院から治療、退院までいろいろな背景が重なりスムーズにいきません。それをカバーしていく必要があります。心不全はどうしても再入院率が高い傾向にあります。それを減らすために地域の医療機関の皆さんと一緒に作った心不全ノートを使った連携を行っています。また、来年度に多職種がかかわる心臓病センターを設置します。高齢者の骨折は患者さんのADLがものすごく悪くなるので、入院初日からのリハビリの介入などを行っていますし、地域医療機関の方々の協力を仰ぎながら、患者さんに一番良い治療が行えるようにしています。

渡邊…当院も同じです。院内で患者さんの入院から退院支援までの情報が共有されていないことが無いように、入院から退院までの情報を見える化して、どの患者さんであっても一目でどのような状況かわかるようにしました。これにより患者さんの診療全般での責任の所在が明確になり、患者さんにとって最善の入院を提供することができます。このシステムも職員が提案して作ってくれました。病院に帰属意識を持った良い職員が育ってくれていて、ありがたいと思っています。

成瀬…その退院支援のシステム、素晴らしいですね。当院にもご教授ください。

渡邊…いつもお世話になっていますから、無料でご支援させていただきます。(笑)

——このようにして病院の情報を共有することで良い病院になっていくと思います。それでは、地域医療機関との連携についてのお考えをお話してください。

成瀬…医師不足や高齢化など、地域医療を取り巻く環境は一段と厳しくなっていくと思います。地域医療を守るためには地域包括ケアシステムの充実など、地域医療機関との連携は非常に重要です。今後、関係をさらに深めるためには、本当に基本的なことですが地域の先生方や医療関係者の方と「顔の見える関係」を作っていくことが重要だと思います。そして、地域住民の方には安全な医療を提供することはもちろんのこと、「もしもの時にいつでも医療を受けられるくらい」を維持し、「高度医療と地域を結ぶ」ことが重要だと考えています。

渡邊…成瀬先生と同意見です。知多半島という広い範囲の医療を担うためには、地域の医療機関との連携が不可欠です。そして、急性期病院として地域に高度医療を提供していく義務があります。地域によって必要な医療が受けられないではダメです。全力を尽くして地域医療を守るために頑張っていきます。

——それでは最後になりますが、将来への展望などがありましたら、お話しください。

成瀬…まずは急性期病院として高度医療を更に高めるため、泌尿器科、麻酔科の医師を増員し、診療の充実を図ります。そして、手術支援ロボットの導入も予定しています。また、診療内容としても心臓病センター、ペインクリニックを設置します。あと、可能であればやりたいことは、仕事をしている皆さんが高度医療機器を利用する受診がしやすいように、患者さんの生活スタイルを考えた診療例えば、MR装置を使った診療や検診を夕方の仕事帰りに受けられるように行うとか、トモセラピーや化学療法などのがん治療も同様です。病院や医療者の方から患者さんに寄り添った診療を行っていききたいと思っています。

渡邊…当院は新築移転が決まっています。そのため地方独立行政法人化による常滑市民病院との経営統合を行うのですが、どのような診療形態が一番地域住民の皆さんや地域医療機関の皆さんにとって最善であるかを十分に検討しなくてはなりません。そこを十分に考えて、ソフト面においても患者さんや連携医療機関のニーズに沿った診療を提供していきます。



渡邊 和彦

1991年名古屋大学医学部卒業後、市立四日市病院、公立陶生病院に勤務。名古屋大学医学部脳神経外科研究員、岡崎市民病院脳神経外科医長を経て、2000年半田市立半田病院脳神経外科医長として赴任し、2021年より現職。専門は脳神経外科。对患者、職員間のコミュニケーションを重視した病院運営を心がける。



成瀬 友彦

1989年名古屋大学医学部卒業。市立四日市病院、名古屋大学医学部附属病院での勤務を経て、1997年春日井市民病院入職。2019年より現職。専門は腎臓内科。「患者さんやご家族に笑顔をプレゼントできる病院」を目指している。

——地域医療にかける熱い思いがよく分かりました。そして、お人柄もわかる素晴らしい対談でした。これからも地域医療機関と連携して、地域の皆さんに良い医療を提供してください。ありがとうございました。

(グラフの略病院名) 春日井：春日井市民病院、小牧：小牧市民病院、徳洲会：名古屋徳洲会病院、江南：江南厚生病院
半田：半田市立半田病院、常滑：常滑市民病院、西知多：西知多総合病院、知多厚生：知多厚生病院、大同：大同病院
刈谷豊田：刈谷豊田総合病院、安城更生：安城更生病院

Operation starts from April 2024

自由にローリングできる独立アームで広がる手術の可能性

執刀医が周りの安全を確認できるオープン3Dモニター
手術支援ロボットの安全性と操作性を最大限に追及



Hugo

それは最新鋭の
手術支援ロボット

TomoTherapy

トモセラピー

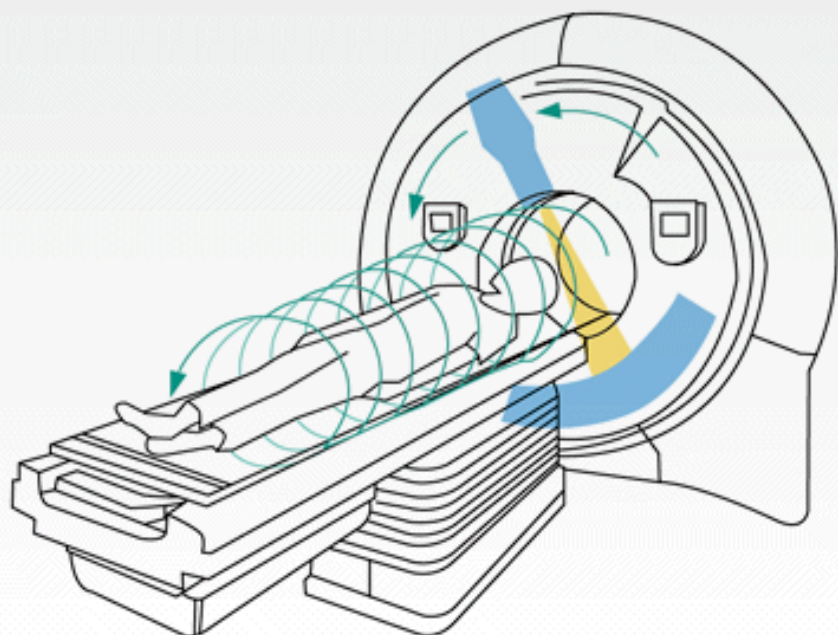


高度医療の先に見える患者さんの笑顔

それが私たちの望みです



トモセラピー



TomoTherapy (トモセラピー) は、IMRT (強度変調放射線治療) と IGRT (画像誘導放射線治療) により正確に腫瘍細胞へ高線量を照射し、健康な組織を守る放射線治療を実現しています！

「高度医療と地域を結ぶ！」

それが当院の大切な方針です。

化学療法での脱毛を抑制
「治療を受ける患者さんの苦痛を
少しでも和らげたい」という想い
患者さんが望む医療を提供し
一緒に歩んでいきたい
それが私たちの望み

頭皮冷却で アピアランスケア



頭皮冷却装置

PAXMAN[®]
HAIR COOLING

もしもの時、身近にいつでも
医療を受けられる暮らし

365日24時間
最善の医療を提供する
皆様の周りにある安心を守り抜く
それが私たちの覚悟



救命救急センター

DPCデータからみえる 春日井市民病院の現状

医療情報技術センター 中崎 亨



初めまして、春日井市民病院 医療情報技術センターの中崎亨です。医療情報技術センターは、病院経営に関心のある職員（私は理学療法士です）を育て、ポトムアップできる組織をつくるため13年前に病院の経営分析と企画を行う部門として設置されました。現在では業務が広がり、経営分析・企画だけでなく、広報、カルテ監査、電子カルテシステム管理など多くの職員と関わる潤滑油のような存在となっています。今回は、春日井市民病院の診療についてお話しさせていただきます。

1. DPCデータとは

DPCデータとは、DPC対象病院が厚生労働省に提出することが義務づけられている患者さんの診療データです。このデータには、患者さん一人一人の属性（年齢、性別、身長、体重など）を示すものから、入院から退院に至るまでにどのような治療がされたかを振り返ることができるものまで、様々なデータが詰まっています。このデータを分析することで、病院の診療状況が見えるようになるだけでなく、全国の病院とベンチマークすることで、自院を客観的に判断することができます。最近では、このデータを利用して5病院による愛知県公立病院経営分析会を開催しています。また、提出された全国のDPCデータから患者数や在院日数などが集計され一般公開されています。そこで、DPCデータから作成されたデータをもとに春日井市民病院（以下、当院）の特徴をご紹介します。

2. 平均在院日数の推移について

増大を続ける国民医療費の抑制などを目的に、国は入院医療において在院日数を短縮する政策を推し進めています。図1は当院と当院が属するDPC標準病院群全体の平均在院日数の推移を示したものです。2020年度は新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の影響を受けて一時的に在院日数が延長しましたが、全体的には一貫して短縮しています。そして、この傾向は今後も継続することが予想され、当院でも在院日数短縮のための取り組みを推進していく必要があります。患者さんが安心して退院できるようにするためには、退院後も切れ目のない医療が提供される必要があります。連携医療機関の皆さまのご協力が不可欠です。

3. COVID-19の影響を受けた感染症の患者数

COVID-19の発生を契機に肺炎や急性気管支炎、ウイルス性腸炎などの感染症の患者数が大幅に減少しました。これは当院だけに限ったことではなく、全国的にも同様の現象が起こっているようです。国民の衛生意識の高まりが要因の一つと言われていますが、COVID-19が5類感染症に移行した今年度、この影響がいつまで続くのかは病院の関心事です。そこで、2019〜2023年度の上半期における入院患者数の推移を確認してみましょう（図2）。ウイルス性腸炎は依然として減

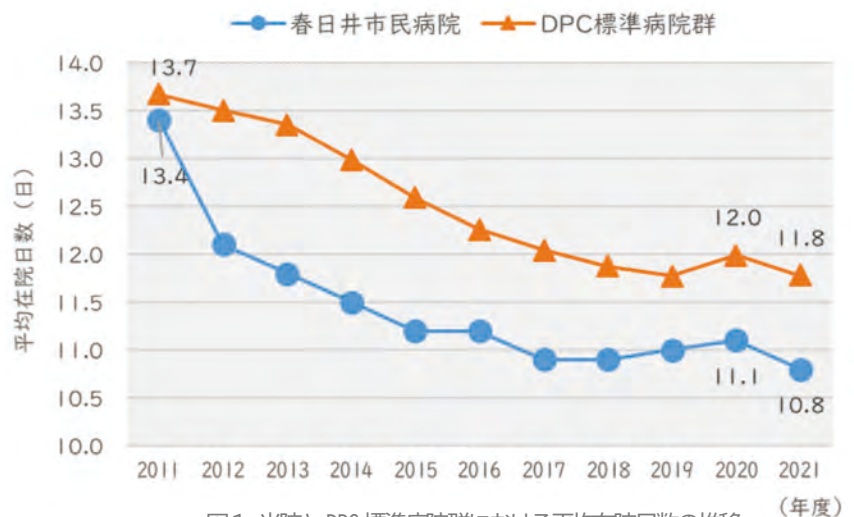


図1 当院とDPC標準病院群における平均在院日数の推移

少が持続していますが、肺炎や急性気管支炎は2023年度大きく上昇していることが分かります。特に小児の肺炎と小児に多い急性気管支炎は概ね2019年度水準に戻りました。元の生活を取り戻しつつある一方、自分や周囲の身を守るために今後も衛生意識を持ち続けることが大切であると感じさせるデータです。

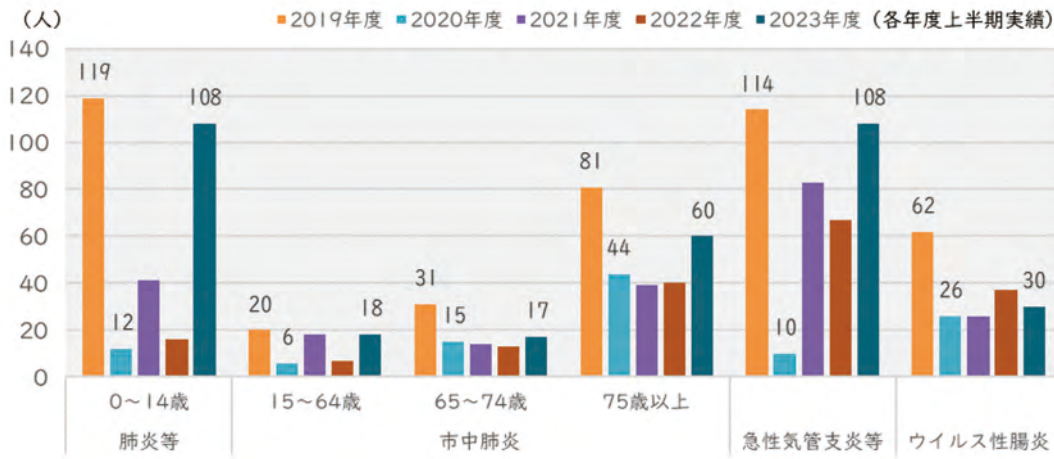


図2 当院におけるCOVID-19の影響を受けた疾病の入院患者数 (各年度上半期)

4. DPC公開データでみる春日井市民病院の強み

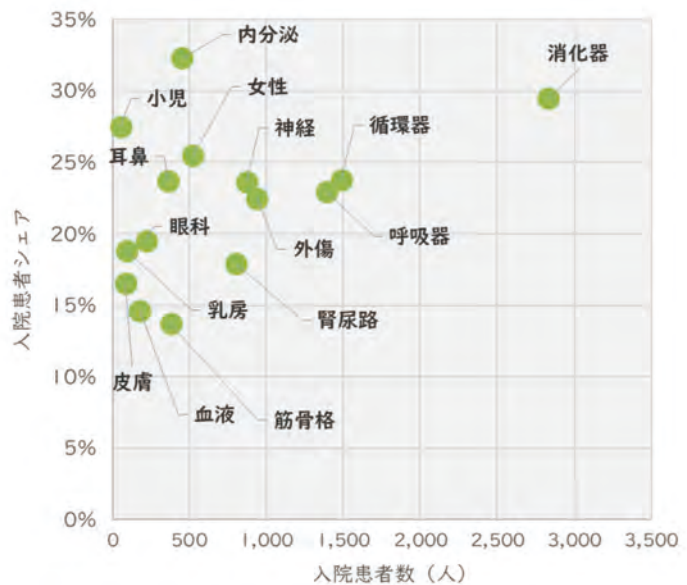
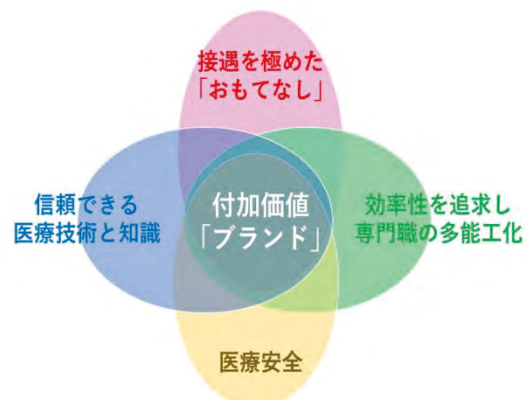


図3 尾張北部医療圏における春日井市民病院の入院患者シェア (2021年度)

設備や在籍する医師の専門分野などに応じて、各病院で診療機能の強みは異なります。各病院が強みを発揮することで、地域全体として住民に必要な医療を提供しています。図3はDPC公開データを用いて、尾張北部医療圏の病院に入院した患者のうち、春日井市民病院に入院した患者のシェアを疾患分類別に表示したものです。例えば、消化器疾患の入院患者数は年間2,800人程で尾張北部医療圏において30%近いシェアを占めています。グラフの上に行くほどその病院が強みとしている疾患と言えます。一方、春日井市民病院ではシェアが低い疾患でも15%近いシェアがあり、幅広い疾患に対応できていることを示しています。安心して患者さんをご紹介いただけますと幸いです。

5. 今後はブランディングが重要

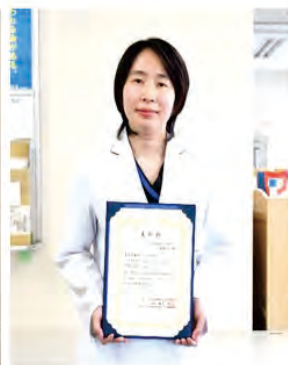


タの分析だけでなく、患者さんとそのご家族、地域医療機関の先生方や職員の皆さんのニーズやご意見を把握して、当院のポジションを客観的にとらえ、満足していただける診療を提供していく必要があります。医療に対する付加価値も重要だと考えています。医療安全や適切な医療技術、接遇はもちろんのことですが、COVID-19の発生で一番感じたのは、専門職の多能工化です。当院では、以前より「この人しかできない」という診療がないよう全ての職員の医療技術や知識の習得に力を入れてきました。そのため、感染により多くの職員が出勤停止になっても診療が滞ることはありませんでした。BCPの大切さを痛感した瞬間です。今後は自病院を俯瞰的に捉え、皆さんのご意見を参考に、さらに信頼される病院を目指していきますので、よろしく願います。

ブランディングは、ブランド(企業や商品)を顧客のニーズや期待に合わせて育て発展させていくマーケティング活動のことをいいますが、今後はブランディングに力を入れるべきであると考えています。そのためには、診療データ

臨床研修指定病院として！

優秀な医師を育てるために、臨床だけでなく研究発表にも力を入れています。研修医・専攻医も毎年数多くの学会発表を行っています。昨年は3名の研修医・専攻医が優秀演題賞を受賞しました。



令和5年6月3日に本方会で行われた第161回日本内科学会東海地方会「若手・研修医セッション」で、片岡梨沙子研修医が優秀演題賞を受賞しました。



令和5年10月15日に行われた第251回日本内科学会東海地方会、伊藤駿腎臓内科専攻医が優秀演題賞を受賞しました。



令和5年10月15日に行われた第251回日本内科学会東海地方会、祖父江雅也消化器内科専攻医（写真右）が優秀演題賞を受賞しました。写真（左）は指導した原田貴仁消化器内科医長



連携 News

春日井市民病院では、地域の医療機関の皆さんと患者さんとの信頼関係を構築することがとても重要であると考えています。その窓口の一つが医療連携室です。どのような事でもかまいません。ご不明なこと、お困りのこと、至らないこと、などございましたら、お気軽にご相談・ご連絡ください。

● Tri-netかすがい

当院へご紹介いただきました患者さんの診療や検査の状況をタイムリーに確認できることは、ふたり主治医制が目指すところであり安全な医療を行う上で重要です。そのため当院で導入しているのが「Tri-netかすがい」です。

Tri-netかすがいは、当院の医療の見える化だけでなく、患者さんにとっても先生方と情報共有をさせていただき、診療の支援にもつながります。

そして、当院の電子カルテと登録医の先生のパソコンを個人情報保護に万全を期した状態でインターネット接続するシステムで、患者さんの診療情報の閲覧及び外来診察・機器共利用の予約が可能となります。



Tri-netかすがい

【Tri-netかすがいのメリット】

- ① オンライン予約ができる
外来診療、CTやMR等の検査予約をFAXや電話を介さずにオンラインで取得可能
- ② 診療状況の閲覧ができる
紹介・逆紹介された患者さんの当院で実施された診療状況を閲覧可能
- ③ 電子的診療情報評価料（B009-2）が算定できる
このシステムを使用して、当院からの紹介患者に係る診療情報を診療に活用した場合に算定可能

*予め地方厚生局長に届出が必要

このシステムをご利用いただくことで、患者さんにとって一番信頼している地域医療機関の先生が、当院での診療を確認できることになり、更に患者さんの安心感の向上につながります。ぜひ、導入してください。

【問い合わせ先】医療連携室

TEL (0568) 83-9924
FAX (0568) 82-9345

QRコードからホームページをご覧いただけます。



(Tri-net かすがい)

(地域医療連携)

(春日井市民病院)

発行 春日井市民病院 広報委員会 (医療情報技術センター内)
〒486-8510 春日井市鷹来町1丁目1番地1
TEL : 0568-57-0057 (代表)
ホームページ <https://www.hospital.kasugai.aichi.jp>